



# 平和ってなに？

～戦争を知って平和を考えよう・児童書版～



7月12日は「宇都宮市平和の日」

7月12日～8月15日は「宇都宮市平和月間」です

宇都宮市では、宇都宮空襲があった7月12日を「宇都宮市平和の日」、7月12日から終戦の日の8月15日までを「宇都宮市平和月間」と定め、戦争の悲惨さや平和の大切さを伝えています。みなさんに読んでほしい、平和を考えるための図書のリストを作成しました。どうぞご利用ください。

	タイトル	秋			<p>自然豊かな秋が大好きだったかこさんが、秋をきれいになったときがあった—それは、昭和19年の秋、太平洋戦争中のこと。当時、高校生だった著者が体験した実話が描かれ、戦争の悲惨さをいつまでも忘れないようにという思いが込められた作品。</p>
	著者	かこさとし/文・絵			
	出版社	講談社			
	分類	E01/カ	出版年	2021年	
	所蔵館	全館			
	タイトル	黄色い星 ～ユダヤ人を守った国王と デンマークの人たちの物語～			<p>デンマーク国王クリスチャン10世は、毎朝護衛を付けずに散歩に出かけられるくらい、国民に愛されていた。ある日、ナチスから「すべてのユダヤ人は、黄色い星の印を服に縫い付けなければならない」という命令を出され…。ナチスに抵抗し、多くのユダヤ人を守ったという国王の伝説をもとにした物語。</p>
	著者	カーメン・アグラ・ディーディ/文 ヘンリー・ソレンセン/絵 那須田淳/訳			
	出版社	BL出版			
	分類	E02/ア	出版年	2021年	
	所蔵館	全館			
	タイトル	かあさんはどこ？			<p>そこは戦争から遠い場所だった。昼間と夕暮れが重なるころ、突然の砲撃とすぐ近くに爆弾が落ちてきた。おそろしい音から逃げ出したが、家はめっちゃめっちゃになっていて、その子はかあさんと離れ離れになってしまう。守ってくれる人もおらず、戦火の中を生きていくことになったある子どもの物語。</p>
	著者	クロード・K・デュボワ/作 落合恵子/訳			
	出版社	ブロンズ新社			
	分類	E02/デ	出版年	2012年	
	所蔵館	全館			
	タイトル	へいわってすてきだね			<p>当時、小学1年生の男の子が平和への思いを書き、2013年沖縄全戦没者追悼式で朗読した詩。6歳の少年の詩を、長谷川義史が魂で描いた。沖縄発、平和へのメッセージ。</p>
	著者	安里有生/詩 長谷川義史/画			
	出版社	ブロンズ新社			
	分類	E04/ア	出版年	2014年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	平和を考える戦争遺産図鑑			写真家の安島太佳由さんが、20年に渡って撮影したアジア・太平洋戦争の写真図鑑。今も国内外に残る、朽ちた軍事施設や戦闘機の残骸など、一枚一枚の写真が戦争の現実を私たちに語りかけてくる。
	著者	安島太佳由/写真・著			
	出版社	岩崎書店			
	分類	210/ヤ	出版年	2015年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	これから戦場に向かいます			戦場ジャーナリストとして紛争地帯を取材し続けた著者による写真絵本。世界の戦場を飛び回り、命をかけて取材し続けた著者が残したメッセージとはなんだったのか。実際に戦場で見聞きしたことが直に伝わってくる。
	著者	山本美香/写真と文			
	出版社	ポプラ社			
	分類	310/ヤ	出版年	2016年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	せんそう・へいわ 日本の詩			戦争の時代に生きた詩人たちは、短い言葉、短い文章にその想いを乗せた。与謝野晶子「君死にたまふことなかれ」、茨木のり子「わたしが一番きれいだったとき」など15編の詩が、戦争の影を色濃く映し出す。
	著者	遠藤豊吉/編・著			
	出版社	小峰書店			
	分類	911.5/エ	出版年	2016年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	光のうつしえ 広島 ヒロシマ 広島			原爆投下から4半世紀後の広島が舞台。被爆2世である中学1年生の主人公達が、あの日、身近な人たちに何が起こり、どんな思いを背負って生きてきたのかを知る。戦争を知らない世代が戦争による様々な痛みを受け止め、真摯に向き合う物語。
	著者	朽木祥/作			
	出版社	講談社			
	分類	913/クツ	出版年	2013年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	ワタシゴト 14歳のひろしま			広島原爆資料館に修学旅行で訪れた5人の物語。それぞれに悩みを抱えた中学生たちが被爆資料から何を感じ学んだのか…。他人事ではなく私事として平和について深く考えさせられる本。
	著者	中澤晶子/作			
	出版社	汐文社			
	分類	913/ナカ	出版年	2020年	
	所蔵館	全館			

	タイトル	聞かせて、おじいちゃん 原爆の語り部・森政忠雄さんの決意			11歳の時に広島で被爆した森政さんは、当時の情景が凄惨すぎたために誰にも語れず、59年間、心の奥底にその記憶を隠していた。孫の自由研究をきっかけに、『古田国民学校卒業生語り部隊』として被爆体験を子どもたちに語り継ぐ森政さんのノンフィクション。
	著者	横田明子/著			
	出版社	国土社			
	分類	916/ヨ	出版年	2021年	
	所蔵館	全館			

発行 令和4年7月 編集・発行 宇都宮市立図書館

問合せ 宇都宮市立中央図書館 〒320-0845 宇都宮市明保野町7-57 電話 028-636-0231